



TITLE:

天象

AUTHOR(S):

CITATION:

天象. 天界 1931, 11(126): 463-465

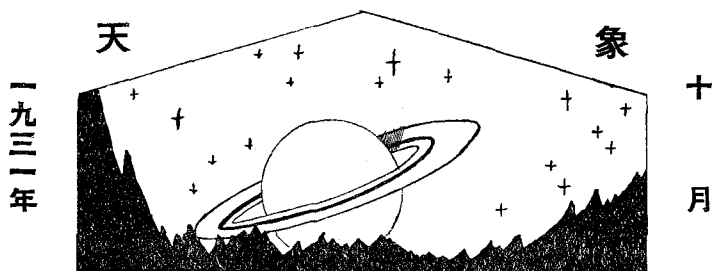
ISSUE DATE:

1931-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161715>

RIGHT:



太 陽

日	赤 經	赤 緯	視直徑	星 座
8	12時51分3秒	南5度28分	32分 5秒	をとめ
18	13時28分1秒	南9度13分	32分10秒	をとめ
28	14時5分57秒	南12度45分	32分16秒	をとめ
(7)	14時45分6秒	南15度58分	32分20秒	てんびん

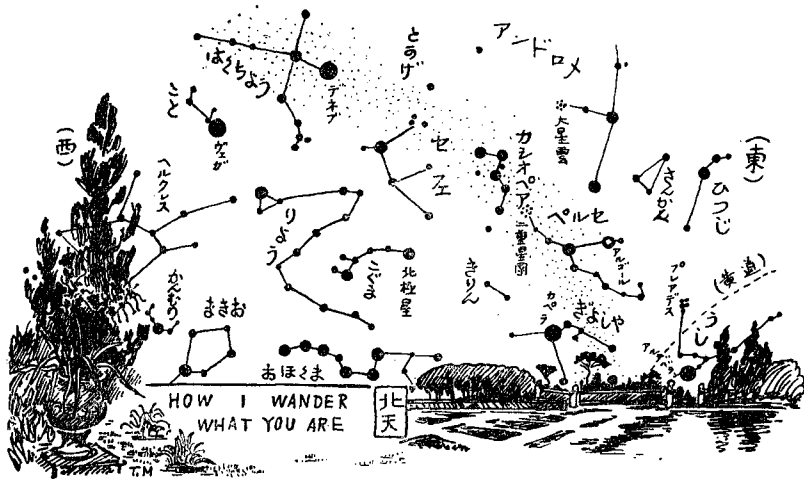
太陽は月始め天秤宮にあるが、二十四日より天蝸宮に侵入する、日の出は、一日五時五十一分、十一日五時五十九分、二十一日六時七分、三十一日六時十六分、日の入りは、一日五時四十三分、十一日五時二十九分、二十一日五時十六分、三十一日五時五分、十一日夜に部分日食があるが夜だから我國からは見られない。見えるのは南アメリカの南半部のみ。

月

月の相	時 刻	視直徑	星 座
下 弦	5日午前5時15分	31分10秒	ふたご
新月(日食)	11日午後10時6分	33分24秒	をとめ
上 弦	18日午後6時20分	30分34秒	いて
満 月	26日午後10時34分	29分34秒	ひつじ
近地點通過	11日午後1時30分	33分27秒	をとめ
遠地點通過	24日午後1時54分	29分26秒	う を
降交點通過	11日午前3時24分	33分25秒	をとめ
昇交點通過	24日午後4時18分	29分27秒	う を

月の出は、一日午後七時四十八分、六日(なし)、十一日午前四時三分、十六日午前十一時二十四分、二十一日午後二時五十五分、二十六日午後四時五十一分、三十一日午後八時五分。

月の入りは、一日午前九時四十五分、六日午後二時二十七分、十一日午後五時十四分、十六日午後八時四十七分、二十一日午前〇時五十六分、二十六日午前五時四十分、三十一日午前十時四十一分、



恒星界

仲秋の名月は、今月二十六日の満月の夜である。

「名月や、池をめぐりて、よもすがら」

只に、星を愛づる者のみではない。昔から風流人は

冴え渡る秋の夜に、虫の聲を聞きながら

涼風を身に受けて、月見の宴を張つたのも道現である。

實に月見の宴は、止めたくない行事の一つである。

銀河は西南から、東北に延びて、その南部を占むる

「いて」座には、遊星界の大立物、土星が輝き、

「わし」、「たて」、「へび」、「へびつかひ」、「ヘルクス」、「まきを」

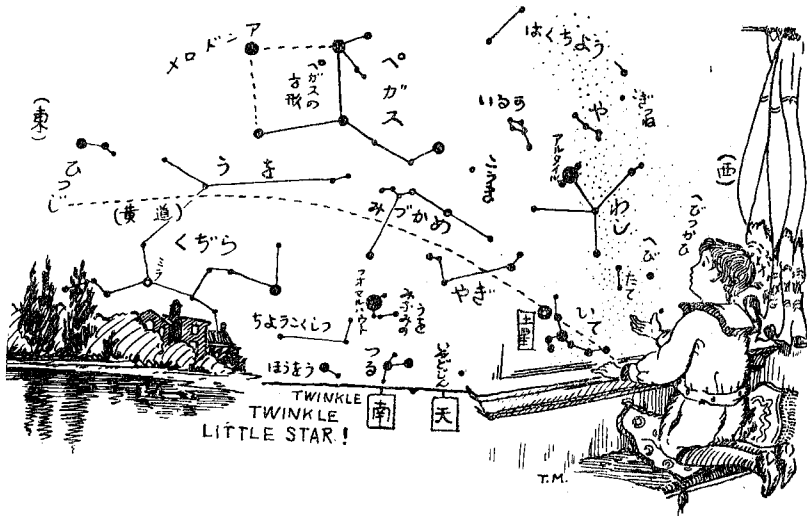
などの、夏に親しみ深かつた星座は、既に、早や、

西へと傾き、今や子午線を通過するものは、

「みなみうを」、「みづがめ」、「ペガス」、「とかげ」、「セフェ」

などであり、「おほくま」の北斗七星は地平線に近いが。

「アンドロメ」の星霧は見頃となつて來た。



遊 星 界

水 星 暁の星として、東天に現はれてゐるが、間もなく太陽の光芒の中に隠れて、見えなくなる。月始めはおとめの西端にあつて、光度負一等視直径五秒であるが、十九日には太陽と外合となり、次に宵の空に廻るが、観望に適するのは月始めのみ。

金 星 宵の空に廻つた許りで、まだ太陽の光芒の中故観望に適しない

火 星 宵の西空に、光度二等、視直径四秒で、 ϵ 座を順行中であるが、次第に太陽の裏側に廻るので、今月からは観望に適せず。

木 星 暁の空に、太陽の先驅として、現はれる。光度負一等半、視直径三十二秒、 ϵ 座と δ 座との境界附近を順行してゐる、

土 星 まだ今月も、土星の観望月と言へよう。但し見頃の過ぎた事は事實、 ϵ 座の中央稍東寄りに光度一等、視直径十五秒として見える。十一日に太陽と矩、輪の長径三十八秒、短径十六秒、傾斜二十四秒度半。

天 王 星 夜半に南中する。 ϵ 座にあり。光度六等、視直径四秒足らず。

海 王 星 暁の東天に在るが太陽に近くて、其の光に遮られて観望困難。

冥 王 星 半夜後の出現、光等十五等。